

## 構想の背景・目的

- ・ 静岡市の人口は1990年の約74万人をピークに減少し、今のままでは2040年には約56万人になると推計。この人口減少に対応するため、第3次総合計画では2025年に人口70万人維持を目標に設定。
  - ・ 本市は、東京圏や名古屋圏へのアクセス、温暖な気候、豊富な地域資源、健康長寿に関する取組、活発な地域活動など、高齢者が元気で生涯活躍できる基盤や地域資源が豊富。
  - ・ 平成27年度に実施した調査では、東京圏・名古屋圏在住の地方移住希望者の約6割、静岡県出身者の約4割が生涯活躍のまちに関心あり。
  - ・ このような背景から、静岡市では、高齢者が元気の段階から、住みたい場所に居住し、健康寿命を延ばせる「生涯活躍のまち」の実現を目指す。
- ※日本版生涯活躍のまち（CCRC）とは、「高齢者が安心して健康で元気に暮らし続けることができ、多世代のための「担い手となる」ことを基本とする仕組みが整った住まい・コミュニティ」と定義されており、居住機能、健康・医療・介護機能、コミュニティ機能、社会参加機能、多世代交流・協働機能の5つの機能により構成。

## 生涯活躍のまち静岡のコンセプト

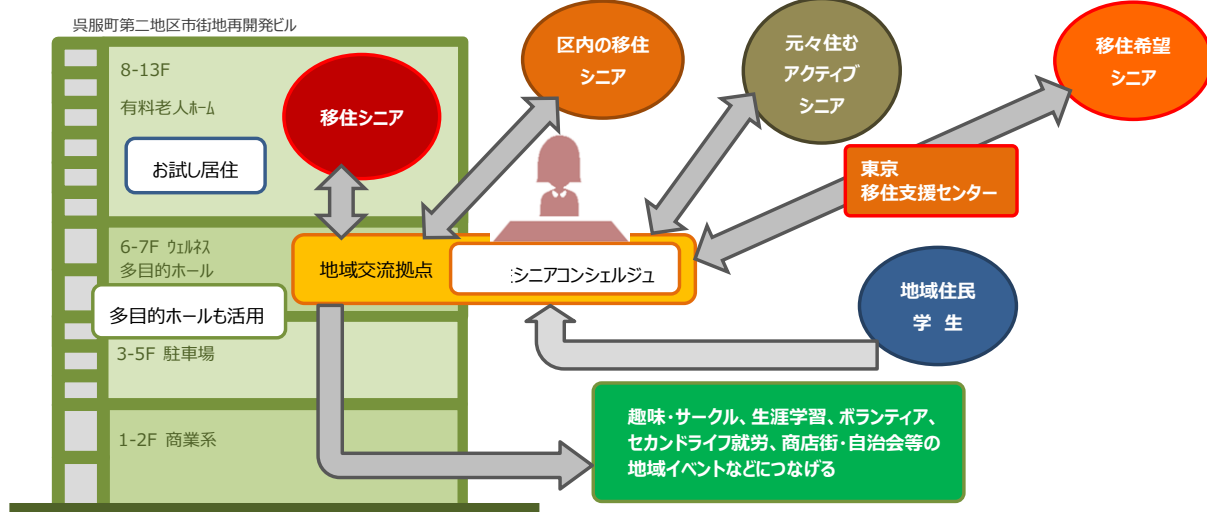
- ・ 地方都市の中でも有数の利便性と活気、歴史文化、都市機能の集積などを活用し、アクティブシニアの移住・定住を促進。
- ・ 豊富な地域資源、活発な地域活動を活かし、生涯学習や社会活動等への参加機会を提供。
- ・ 移住高齢者も、地区にもともと住む高齢者も、ともに地域社会に溶け込み健康でアクティブな生活を送ることで、健康寿命を延伸。
- ・ 移住者も現在市民も、地域等で自らのスキルを活かして社会参加し、また、障がい者、子ども・子育て家庭、学生、留学生、高齢者まで多世代、多様な市民が交流し支え合う共生のまちを実現。

## 生涯活躍のまち静岡の進め方（展開イメージ）

平成27年度に実施した調査結果における実現可能性等を踏まえ、再開発事業が進行している呉服町地区、地域福祉の拠点整備が急がれている駿河区役所周辺地区において、生涯活躍のまちの実現に向けた取組に着手しています。具体的な取組は、下記の展開イメージをベースとして検討しています。

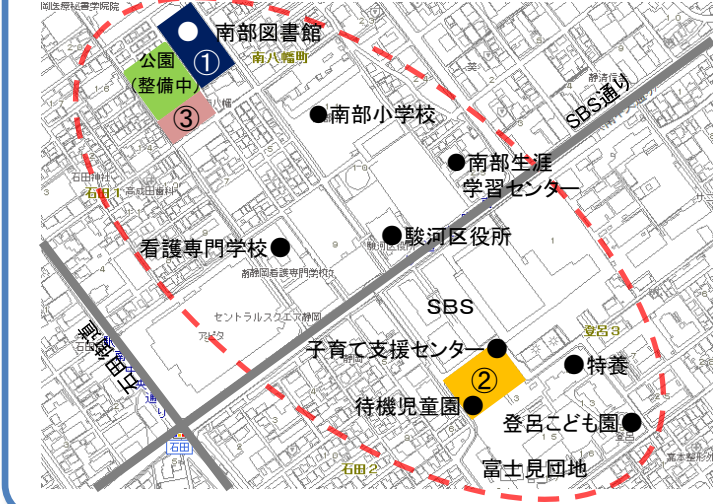
### 呉服町「おまち」地区 ～コンセプト「おまち暮らし」～

- 呉服町第二地区の市街地再開発事業を活用。再開発ビル（平成30年完成予定。）の上層階に入居予定の有料老人ホームを核となる「中心居住施設」として位置づけ、また多目的ホールと併せて「地域交流拠点」を整備。
- 地域交流拠点に「シニアコンシェルジュ」（仮称）を置き、施設や近隣への移住希望者への相談・同行支援、移住後の地域生活や社会参加の支援を実施。あわせて地域の一般のシニアの社会参加も支援。
- 社会参加の支援としては、地域交流拠点を中心に趣味・サークルの活動や生涯学習機会の提供を行うほか、近隣の静岡中央子育て支援センターや城東福祉エリア等でのボランティア、セカンドライフ就労の情報提供、地域イベントへ参加など地域での活動を支援。
- 「お試し居住」機能を中心居住施設に持たせ、新たな移住ニーズの獲得に向けた活動も展開。



### 駿河「共生」地区（駿河区役所周辺）～コンセプト「学び・実践・貢献」～

- ①の既存施設を改修し「地域交流拠点」を整備。駿河区の地域福祉の拠点機能も持たせる。
- 「シニアコンシェルジュ」（仮称）を置き、中心居住施設や近隣への移住希望者の相談・同行支援、移住後の地域生活や社会参加のための支援を実施。あわせて地域の一般のシニアの社会参加も支援。特に、駿河区内の教育・文化施設等との連携により学びの場を積極的に提供。
- ②地区は、駿河区での整備の緊急性の高い児童福祉施設を誘致するなど、駿河区の子育て支援の中核地区として整備。移住シニアによる施設ボランティアや子育て家庭への支援など実践・活躍の場としても活用。
- ②地区の施設の周りには、障がい者やシニア、学生等も働くレストラン・カフェや売店、ミニ農園といった誰もが活躍できる場を設け、施設を利用する子ども、子育て家庭や地域住民も含め、多世代、多様な人たちの交流を促進。



- ③地区内に高齢者向け住宅を中心にシニアが子育て世代などと一緒に地域で住み続けられる多世代・地域交流型の住宅の誘致（民設民営）を検討。